

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700295
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム星城
所在地	大洲市徳森土肥1790番地3
自己評価作成日	平成21年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・大洲市東部神南山のふもとにある星城は大洲市内唯一の3フロアを持つグループホームです。洋風の3階建ての建物で各フロアからの眺めは雄大です。各フロアの利用者様は、他のフロアと交流しながら生活されています。
 ・静かな緑あふれる環境の中それぞれが役割を持って生活されています。利用者を支える職員は、一人ひとりが目標を持ち介護力を高めるため研修に参加しています。
 ・星城内に年間目標を掲げ、地域や家族さんとの交流を深めるため今年も8月に夕涼み会を行いました。地域の方々にグループホームへの理解を頂き、地域の中で認知症の方々が安心して生活できる様情報を発信していきたいと思えます。利用者様も職員も互いに笑顔で感謝の気持ちを声かけしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の心身の状況を常に把握し、医師と連携して十分な健康管理を行いながら実績を積み上げているホームである。職員は一人ひとりが目標を持ち、「ありがとう」の気持ちでの関わりを大切に、自立に向けた支援を心がけている。近隣にホーム便りを配布したり、夕涼み会に招待するなど、地域の方と良好な関係を築き、地域になじむよう努めている。景観が素晴らしい洋館風の建物で、ゆったりと落ち着いた雰囲気の中で、利用者は穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム星城

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 森本あけみ

評価完了日 平成21年8月31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) フロアで理念を掲げ目標に対して努力しているが、全員が理解しているとは思えない。</p> <p>(外部評価) 法人及びホームの理念を基に、各ユニットごとに独自の理念を掲げている。また、ホームの年間目標を全職員で決めるとともに、職員一人ひとりが目標を定め、日々のケアの実践に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 回覧板を回してもらったり、ホーム新聞を地域の方々に見て頂いたり、地域の奉仕活動にも参加している。又、地域の方が作られた野菜を差し入れして下さったり日常的な交流は少しずつではあるができて思う。</p> <p>(外部評価) ホーム便りを作成して地域へ配布したり、地域の清掃活動や祭りに参加している。回覧板を届ける時は利用者と一緒に訪問したり、夕涼み会を開催して招待する等、なじみの関係が持てるように工夫を重ねている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議のメンバーの方々には理解して頂いていると思うが、地域の方々にはまだまだ理解して頂く必要あり。自治会、老人会等に積極的に参加し認知の理解や関わり方について勉強会の実施が必要だと思う。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回実施している。運営推進会議の中で意見を参考にさせて頂いたり、地域の情報を教えて頂いたり、又、家族会のアンケートを取ったり、サービス向上に取り組んでいる。	
			(外部評価) 2か月に1回開催し、会議録も整備している。会議の中で出された意見を家族会で話し合ってもらうことで家族間の連絡網ができる等、運営推進会議を活かした取り組みが実践できているが、地域の方の参加がやや少ない傾向にある。	地域包括支援センター、老人会、ボランティア、自治会等、地域の方がメンバーに加わることで、会議が地域の理解と支援を検討できる場となり、サービスのさらなる向上につながっていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ・市町村で行われる研修に参加（サービス担当者会議） ・入居者の報告、情報の提供に協力している。	
			(外部評価) 市主催の研修会に積極的に参加している。入退居者の報告をしたり、必要時には相談に応じてもらうなど連携を図っている。また、運営推進会議のメンバーとしても参加してもらい、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に対して十分把握しており、なるべく拘束しないように行っているが、安全を考え、やむを得ず必要な場合は、家族、本人に説明し、同意書を頂いている。又、拘束する場合は拘束時間が長くならないよう対応している。	
			(外部評価) 安全を優先させなければならない場合には、利用者や家族と話し合い、同意を得ている。各階のドアにはチャイムを設置し、職員は利用者の様子を常に確認している。施錠は行っていない。	職員全員での研修会や勉強会を実施し、身体拘束の定義や弊害についての理解をさらに深め、実践に活かしていくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員一人ひとりが自分自身、お互いに注意を払っている。利用者の変化にも気をつけ観察し、職員間で情報の共有ができるよう防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) まだまだ理解できている職員は少ないため、勉強会の実施が必要である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約は管理者が行っている。十分な説明を行っていると思うが、家族の中には後になって理解できていない部分もある。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を行っている。意見は出ているが、具体的な意見は出ていない。職員、家族間の関係は身近になってきていると思う。 (外部評価) 家族会を開催して意見交換を行ったり、意見箱を設置しているが、運営に関する意見はあまり出されていないため、管理者及び職員は、家族の来訪時や電話で個別に意見や要望を聞き取るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務、ケアカンファレンス等で話し合いの場はもっているが、代表者の参加はなく、職員の意見はあまり反映されていない。 (外部評価) 月1回のユニット合同での業務カンファレンスと、ユニット毎のケアカンファレンスを開催しており、管理者は職員との意見交換を行ったり、職員からの提案を聞くよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ・給与面において向上心に欠く職員個々の努力や実績を査定し、給与、賞与に反映させ、やりがいのある職場作りに努めてほしい。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 採用時（オリエンテーション）、フォローアップ等、それぞれに応じた研修がなされていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) サービス担当者会議等で意見交換を行っている。しかし、ネットワーク作りはあまりできておらず、職員間の相互交換等、積極的に参加する必要がある。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の話を傾聴し受け止める努力をしている。又、家族の方にも協力を頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査、面会時に情報を交換し、良い信頼関係が築けるよう関係作りに努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・入居前に本人と家族にホームを見学して頂いている。 ・他のサービス利用への対応はしていない。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できること、できないことの把握に努め、できることに対して感謝の気持ちを示している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に面会の協力、外泊の協力をお願いしている。また、プラン作成においても協力のお願いをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 可能な場合は、家族に協力を得て外出したり、面会にきて頂いている。馴染みの化粧品店への同行、お店の方の訪問依頼も行っている。 (外部評価) 外出時には、利用者が以前住んでいた場所の近くまで足を伸ばしてみたり、馴染みの店へ立ち寄りしたりしている。法事への出席など大切な外出の支援にも努めている。時には家族の協力を得て外出することもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格、相性を配慮し、お互いが思い合える場面作りを支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も必要に応じ、情報を提供をしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりが、どのような生活をしたのか理解し、できること、できないことを把握し、ケアカンで話し合いプランに導入している。	
			(外部評価) 本人や家族との日常の会話や、ちょっとした言動等から思いを汲み取るよう努めている。気付いたことや把握したこと等は利用者の担当職員がセンター方式の書類に記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査時には利用者の生活している場所に訪問し、これまでの生活が把握できるよう情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の業務の中で、観察力を高める努力をし、入居者の変化や気づきを見落とさないよう介護記録に記入している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ・本人、家族の意見を取り入れ、月1回のケアカン、必要な場合は随時検討し、職員間で情報を共有、対応している。 ・3ヶ月に1回、モニタリングを行い本人、家族とプランの見直しをしている。	
			(外部評価) 家族の来訪時や電話等で意見や要望を聞き、毎月のケアカンファレンスで検討している。3か月に1回モニタリングを実施して介護計画を作成している。職員全員が共有し、評価につながるような日々の記録が大切なことを職員全員が理解しており、実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 入居者の変化や気づき等、介護記録、業務日誌、申し送りノートを活用し職員間で情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ・系列の病院での受診、往診を行っている ・系列の保育所で子どもたちとの関わりを持っている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ・地域消防団との火災訓練の実施 ・中学生、高校生のボランティアの受け入れ ・出張散髪、理容室・移動パン屋	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望を大切にし、適切な医療が受けられ るよう支援している。 (外部評価) かかりつけ医は利用者や家族の希望を基本としている が、法人代表が医師であり、その運営する医療機関か ら月2回の往診もあるなど連携が密に取れていること から、今までのかかりつけ医から移行する傾向にあ る。受診は家族対応もしくは職員の同行で、日頃の状 態を伝えることができるよう工夫している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週1回の担当看護師の訪問。情報の交換をすると共 に、急病、怪我時、報告、相談を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 情報交換や相談に努め、医療関係者との関係づくりに 努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時、終末期までの対応ができることを説明してい る。必要に応じ、話し合う場を作り、家族、担当医、 職員とで密な連携を取っている。 (外部評価) 利用開始時には看取りに関する指針に基づき説明をし ている。重度化した場合には、その都度必要に応じて 家族、医師、職員等で話し合いを重ね、支援方針や内 容を決めながら実践している。	職員が看取りに関して不安を持たずにケアに当たれる よう、ケースや時期に応じて職員全体で話し合いや研 修会を重ねて意識の共有化を図り、チームでの看取り に取り組むことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・毎年、救命講習を職員全体で受講している 人工呼吸法、心臓マッサージ、AEDの使用法を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を定期的に行っている。地域の消防団、消防署の指導を受け、地域近隣の方々にも協力をお願いしている。 (外部評価) 消防署や地域の消防団の参加や指導を受けながら、年2回避難訓練を行っている。各居室の表札は誘導の有無が確認できるよう工夫されており、また近隣住民にも協力を依頼している。	消防署などの専門家や行政からのアドバイスを受けながら、3階からでもスムーズで安全に避難できる具体的な方法を身につけられるよう訓練を重ね、非常災害時に備えることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 相手の立場に立ち、優しく接し、本人のできることを尊重すると共に、プライドを傷つけないよう対応している。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりに優しく丁寧に対応し、プライバシーや尊厳を守るようトイレ誘導をさりげなく行うなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の業務の中で、話を聞く機会を作り、入居者の希望が実現できるよう励まし、自己決定ができるような雰囲気作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の決まりや都合で支援している時がある。(入浴、食事開始時間等)	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服を選ぶことのできる人は自分で、できない人は職員が気をつけて身だしなみの支援をしている。カット、毛染めも行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の準備、片付けは、できるレベルにより対応している。職員も入居者と同じ物を食べているが、食事介助が必要な入居者もいるため、現状では一緒に食べることは難しい。	
			(外部評価) 介助を必要とする利用者が増えたため、職員も一緒に食べることはできないが、食事風景は和やかで会話も弾んでおり、下膳や食器洗いなどの片付けも一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの食事量、水分量を記録に残している。摂取量が少ないときは、好きなものを食べて頂いたり、飲み物の種類を変えたり工夫して支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・毎食後の口腔ケアの実施 ・週に1回ポリデントで消毒している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 (外部評価) 介助の必要な方については排泄の記録を取ってパターンを把握し、適切な声かけや誘導を行っている。トイレが浴室につながっており、汚れた場合にも羞恥心や不安を感じることなくスムーズに支援できるよう工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量に気をつけ、運動を促している。又、腹部マッサージをしたり予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員側の都合で決めてしまっている。特に夜間浴は今の勤務体制では難しい。 (外部評価) 利用者の好む時間帯や体調に合わせてタイミングよく入浴を行っており、夜間の対応をしているユニットもある。入浴拒否の方にも声かけなどに工夫しながら、気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの睡眠パターンを把握する努力をし、安眠策を考え、なるべく入眠剤に頼らないような支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 介護記録に個々の処方箋を添付。種類、副作用等一目で分かるよう、工夫している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの楽しみごとや、出番が出せるような場面作りや声かけを心がけている。(テレビ番組、園芸、台所、掃除、洗濯等)	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 施設回り、中庭を自由に散歩されている入居者はいるが、一人ひとりの希望にそった支援はできていない。	
			(外部評価) 中庭での日光浴や建物周辺の散歩は自由に行っている。かなり急な山道という立地条件もあり、個々の希望に合わせた外出に職員が常に同行することは難しい場合もあり、家族に協力をお願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の同意を得て、持たれている入居者もいる。買い物時は一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は自由にやり取りができるよう支援している。携帯電話を持たれ、家族、知人と自由に連絡を取り合われている入居者もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関、中庭には花木を植えており、音光にも注意し、室温、換気にも気をつけている。	
			(外部評価) 各フロアそれぞれが、壁紙や家具の配置等で個性のある雰囲気づくりに取り組んでいる。共用空間の畳スペースが広くテーブルの配置が難しいため、全員が同時に食卓を囲んで食事することは困難な状況にある。	車いす利用者は個別のテーブルを利用しているが、同じ食卓で皆一緒に楽しく食事できるように畳スペースの有効活用を検討する等、工夫に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 畳の間があり、中庭にはベンチを置き、ゆったり過ごして頂けるような環境作りをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に馴染みの物を持ってきていただけるようお願いしているが、入居者によっては家族の協力を得ず、殺風景な居室になっている。	
			(外部評価) 備え付けの家具類は落ち着いた木調で、写真や花などそれぞれ思い思いの小物を飾り、個性的な部屋となっている。室内は整理整頓され、利用者の状態に合わせてベットではなく布団を使用する等の工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレの場所、居室を明記している。寝具ははそれぞれのレベルで対応しており、ジュウタン、マットレス使用の入居者もおおり、安全な環境作りを支援している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700295
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム星城
所在地	大洲市徳森土肥1790番地3
自己評価作成日	平成21年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・大洲市東部神南山のふもとにある星城は大洲市内唯一の3フロアを持つグループホームです。洋風の3階建ての建物で各フロアからの眺めは雄大です。各フロアの利用者様は、他のフロアと交流しながら生活されています。
 ・静かな緑あふれる環境の中それぞれが役割を持って生活されています。利用者を支える職員は、一人ひとりが目標を持ち介護力を高めるため研修に参加しております。
 ・星城内に年間目標を掲げ、地域や家族さんとの交流を深めるため今年も8月に夕涼み会を行いました。地域の方々にグループホームへの理解を頂き、地域の中で認知症の方々が安心して生活できる様情報を発信していきたいと思えます。利用者様も職員も互いに笑顔で感謝の気持ちを声かけしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の心身の状況を常に把握し、医師と連携して十分な健康管理を行いながら実績を積み上げているホームである。職員は一人ひとりが目標を持ち、「ありがとう」の気持ちでの関わりを大切に、自立に向けた支援を心がけている。近隣にホーム便りを配布したり、夕涼み会に招待するなど、地域の方と良好な関係を築き、地域になじむよう努めている。景観が素晴らしい洋館風の建物で、ゆったりと落ち着いた雰囲気の中で、利用者は穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム星城

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏名 山崎 より子

評価完了日 H 21 年 8 月 18 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 共有理念はあり、それを踏まえて各階での全体、個人の目標を掲げている。	
			(外部評価) 法人及びホームの理念を基に、各ユニットごとに独自の理念を掲げている。また、ホームの年間目標を全職員で決めるとともに、職員一人ひとりが目標を定め、日々のケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩の際に挨拶をしたり、地域行事参加や当施設での夕涼み会に来て頂く等の交流をしている。	
			(外部評価) ホーム便りを作成して地域へ配布したり、地域の清掃活動や祭りに参加している。回覧板を届ける時は利用者と一緒に訪問したり、夕涼み会を開催して招待する等、なじみの関係が持てるように工夫を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方への協力は十分ではないが地域からの協力は得ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議で話し合った内容を記録した物を掲示し、スタッフ間で見れる様にしており、サービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 2か月に1回開催し、会議録も整備している。会議の中で出された意見を家族会で話し合ってもらうことで家族間の連絡網ができる等、運営推進会議を活かした取り組みが実践できているが、地域の方の参加がやや少ない傾向にある。	地域包括支援センター、老人会、ボランティア、自治会等、地域の方がメンバーに加わることで、会議が地域の理解と支援を検討できる場となり、サービスのさらなる向上につながっていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議などで意見交換をし協力関係を築いている。	
			(外部評価) 市主催の研修会に積極的に参加している。入退居者の報告をしたり、必要時には相談に応じてもらうなど連携を図っている。また、運営推進会議のメンバーとしても参加してもらい、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) しない様なケアをしているが、安全上や入居者本人が危険な状態に陥る場合は、家族に説明し同意を得た上で行うケースもある。	
			(外部評価) 安全を優先させなければならない場合には、利用者や家族と話し合い、同意を得ている。各階のドアにはチャイムを設置し、職員は利用者の様子を常に確認している。施錠は行っていない。	職員全員での研修会や勉強会を実施し、身体拘束の定義や弊害についての理解をさらに深め、実践に活かしていくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 危険の早期発見、職員間・入居者間のストレスの軽減、家族などの面会時も気にする様になっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などで勉強したり、該当ケースがある場合は再度職員間で話し合い理解を深める様になっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族・身元引受人の方に十分に説明をし、理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) プラン作成時に本人・家族の要望を聞いて作成に反映する様にしている。又、希望にそった処遇になる様にしている。 (外部評価) 家族会を開催して意見交換を行ったり、意見箱を設置しているが、運営に関する意見はあまり出されていないため、管理者及び職員は、家族の来訪時や電話で個別に意見や要望を聞き取るよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ケアカンファレンス・業務カンファレンスで話し合うなどしている。	
			(外部評価) 月1回のユニット合同での業務カンファレンスと、ユニット毎のケアカンファレンスを開催しており、管理者は職員との意見交換を行ったり、職員からの提案を聞くよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有資手当てをつけ、資格取得といった向上心を持てる様に取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加してもらったり、研修内容をカンファレンスなどで報告してもらうようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) サービス担当者会議に参加、運営推進会議での意見交換や他施設への見学訪問で意見交換をするなどしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の希望や不安などを聞いてより良い様にプラン作成するなどし関係作りをする様に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族から希望・不安などを聞き、プラン作成に反映させるなどして関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前調査等で得た情報と職員間の話し合いなどでプラン作成をして説明する様にしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 話を聞いて関係構築するようにし、必要なら家族に協力をしてもらう様にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 電話で様子を話したり、面会時に話す様にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出時などの際に、本人の家の近所をドライブしてみたりしている。 (外部評価) 外出時には、利用者が以前住んでいた場所の近くまで足を伸ばしてみたり、馴染みの店へ立ち寄りしたりしている。法事への出席など大切な外出の支援にも努めている。時には家族の協力を得て外出することもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お手伝いをしてもらう際も1名ではなく2～3名で手伝ってもらう様にしたり、会話の中に職員も入って話の輪を広げる様にしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 死亡時・長期入院時の利用終了が多いが、利用時（在居時）の情報を聞かれたら対応する様にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 帰宅願望が強い時は希望に十分に添えていないが、出来るだけ本人の希望に添える様に努めている。 (外部評価) 本人や家族との日常の会話や、ちょっとした言動等から思いを汲み取るよう努めている。気付いたことや把握したこと等は利用者の担当職員がセンター方式の書類に記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査・面会時に情報を得る様に努め、得た情報は職員間で共有し活かす様にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや職員が一人ひとり関わって身心の情報把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のケアカンファレンスで話し合っ、相談・モニタリングをし活かす様にしている。	
			(外部評価) 家族の来訪時や電話等で意見や要望を聞き、毎月のケアカンファレンスで検討している。3か月に1回モニタリングを実施して介護計画を作成している。職員全員が共有し、評価につながるような日々の記録が大切なことを職員全員が理解しており、実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録・業務記録に記録して残し、確認したら印を押すなどして共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の状態変化に応じて家族に相談したり、スタッフ間で話し合ったり等、その都度柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の文化祭に参加する等している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医の月2回の往診があるが、家族の希望する病院 がある場合、家族による受診を実施している。 (外部評価) かかりつけ医は利用者や家族の希望を基本としてい るが、法人代表が医師であり、その運営する医療機関か ら月2回の往診もあるなど連携が密に取れていること から、今までのかかりつけ医から移行する傾向にあ る。受診は家族対応もしくは職員の同行で、日頃の状 態を伝えることができるよう工夫している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週1回来てもらった時に状態報告をしたり、緊急時に は連絡を入れる様にしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) サマリ作りをして情報交換をする様にしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取り希望の家族には説明し主治医・看護師と方針を 相談し対応する様にしている。 (外部評価) 利用開始時には看取りに関する指針に基づき説明をし ている。重度化した場合には、その都度必要に応じて 家族、医師、職員等で話し合いを重ね、支援方針や内 容を決めながら実践している。	職員が看取りに関して不安を持たずにケアに当たれる よう、ケースや時期に応じて職員全体で話し合いや研 修会を重ねて意識の共有化を図り、チームでの看取り に取り組むことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回、消防署の方による普通救命講習を行い、緊急時に備える様になっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練や緊急時に近隣のお宅に助けを求められる様に連絡網を作りお願いするなどして、災害時に備える様になっている。 (外部評価) 消防署や地域の消防団の参加や指導を受けながら、年2回避難訓練を行っている。各居室の表札は誘導の有無が確認できるよう工夫されており、また近隣住民にも協力を依頼している。	消防署などの専門家や行政からのアドバイスを受けながら、3階からでもスムーズで安全に避難できる具体的な方法を身につけられるよう訓練を重ね、非常災害時に備えることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の情報を入居者の前で話さない様にしたたり、お手伝いをお願いする際や呼ぶ際は名前ですんだり、何かしてもらった時に感謝の言葉がけをする様になっている。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりに優しく丁寧に対応し、プライバシーや尊厳を守るようトイレ誘導をさりげなく行うなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で選択肢を作り、自己決定をする場面を作る様になっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員主体になる場合もあるが、一人ひとりのペースを大切に希望を聞き行う（入浴時間）様にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣時の衣服決定や化粧水をつける方は洗面台にて身だしなみチェックをしてもらうなど努める様にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 盛りつけの工夫や食事作りを一緒にする・味見をしてもらったり片付けを一緒にする様にしている。	
			(外部評価) 介助を必要とする利用者が増えたため、職員も一緒に食べることはできないが、食事風景は和やかで会話も弾んでおり、下膳や食器洗いなどの片付けも一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の食事量・水分量チェックをして摂取量の把握をする様にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々の状態で、一部介助・全介助等で口腔ケアをする様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 誘導が必要な方の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をする様にしている。	
			(外部評価) 介助が必要な方については排泄の記録を取ってパターンを把握し、適切な声かけや誘導を行っている。トイレが浴室につながっており、汚れた場合にも羞恥心や不安を感じることなくスムーズに支援できるよう工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を多く摂ってもらったり、同じ水分にならない様に工夫する様にしている。又、食物繊維の多い物でのおやつ作りをする様にしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 午後から入ってもらったり、夜に入ってもらう様にしている。	
			(外部評価) 利用者の好む時間帯や体調に合わせてタイミングよく入浴を行っており、夜間の対応をしているユニットもある。入浴拒否の方にも声かけなどに工夫しながら、気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼食後休んでもらったり、一人ひとりに合った入眠時間に寝てもらう様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬状を介護日誌にコピーして見れる様にし把握する様にし、変化に応じて対応したり、病院からの朝の電話の時に報告する様にしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 散歩に出かけたり、外出での気分転換を図る様にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的な外出は出来ていないが、家族と外出されたり、買い物時に出かける様にしている。	
			(外部評価) 中庭での日光浴や建物周辺の散歩は自由にしている。かなり急な山道という立地条件もあり、個々の希望に合わせた外出に職員が常に同行することは難しい場合もあり、家族に協力をお願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理の出来る方は、買い物時に支払いをしてもらう様にしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人より希望時は取り次ぎをして本人と話してもらう様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 花を持ってきたり、掲示物を貼ったりして季節感を感じたりトイレ掃除を毎日する等して不快な臭いが出ることがないようにしている。	車いす利用者は個別のテーブルを利用しているが、同じ食卓で皆一緒に楽しく食事できるように畳スペースの有効活用を検討する等、工夫に期待したい。
			(外部評価) 各フロアそれぞれが、壁紙や家具の配置等で個性のある雰囲気づくりに取り組んでいる。共用空間の畳スペースが広くテーブルの配置が難しいため、全員が同時に食卓を囲んで食事することは困難な状況にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ハード面の改良が必要なので難しいがソフト面で出来るだけ工夫する様になっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の馴染みの物を持ってきてもらい、本人の好きな配置で居室作りをする様にしている。	
			(外部評価) 備え付けの家具類は落ち着いた木調で、写真や花などそれぞれ思い思いの小物を飾り、個性的な部屋となっている。室内は整理整頓され、利用者の状態に合わせてベットではなく布団を使用する等の工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 本人がバルコニーで花や野菜を育てられる様にしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700295
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム星城
所在地	大洲市徳森土肥1790番地3
自己評価作成日	平成21年8月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・大洲市東部神南山のふもとにある星城は大洲市内唯一の3フロアを持つグループホームです。洋風の3階建ての建物で各フロアからの眺めは雄大です。各フロアの利用者様は、他のフロアと交流しながら生活されています。
 ・静かな緑あふれる環境の中それぞれが役割を持って生活されています。利用者を支える職員は、一人ひとりが目標を持ち介護力を高めるため研修に参加しております。
 ・星城内に年間目標を掲げ、地域や家族さんとの交流を深めるため今年も8月に夕涼み会を行いました。地域の方々にグループホームへの理解を頂き、地域の中で認知症の方々が安心して生活できる様情報を発信していきたいと思えます。利用者様も職員も互いに笑顔で感謝の気持ちを声かけしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の心身の状況を常に把握し、医師と連携して十分な健康管理を行いながら実績を積み上げているホームである。職員は一人ひとりが目標を持ち、「ありがとう」の気持ちでの関わりを大切に、自立に向けた支援を心がけている。近隣にホーム便りを配布したり、夕涼み会に招待するなど、地域の方と良好な関係を築き、地域になじむよう努めている。景観が素晴らしい洋館風の建物で、ゆったりと落ち着いた雰囲気の中で、利用者は穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 GH星城

(ユニット名) 3F

記入者(管理者)

氏名 徳生 ナナコ

評価完了日

平成21年8月27日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> <p>○いつでも見える所に提示しており、実践につながるよう企画等に取り組んでいる。 ○フロアの理念もある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>法人及びホームの理念を基に、各ユニットごとに独自の理念を掲げている。また、ホームの年間目標を全職員で決めるとともに、職員一人ひとりが目標を定め、日々のケアの実践に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> <p>○通勤時、散歩時のあいさつに気をつけている。 ○地域の行事には出来るだけ参加し、回覧板にホームの新聞を入れてもらっている。また、年末にはホームでついた餅を配ったりして気軽に付き合いが出来るよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ホーム便りを作成して地域へ配布したり、地域の清掃活動や祭りに参加している。回覧板を届ける時は利用者と一緒に訪問したり、夕涼み会を開催して招待する等、なじみの関係が持てるように工夫を重ねている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>○運営推進会議では話し合っているが具体的には行っていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ○公民館の文化祭に参加した。 ○今年の夕涼み会の参加が少なかったため、運営推進委員会のメンバーの方にも協力していただき、地域の行事の1つとなるよう努力していきたい。	
			(外部評価) 2か月に1回開催し、会議録も整備している。会議の中で出された意見を家族会で話し合ってもらうことで家族間の連絡網ができる等、運営推進会議を活かした取り組みが実践できているが、地域の方の参加がやや少ない傾向にある。	地域包括支援センター、老人会、ボランティア、自治会等、地域の方がメンバーに加わることで、会議が地域の理解と支援を検討できる場となり、サービスのさらなる向上につながっていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ○運営推進会議や介護相談員の来所があり、サービス担当者会議に出席したり、会社の勉強会の講師を依頼している。	
			(外部評価) 市主催の研修会に積極的に参加している。入退居者の報告をしたり、必要時には相談に応じてもらうなど連携を図っている。また、運営推進会議のメンバーとしても参加してもらい、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ○新人スタッフは理解が不十分だと思うので勉強会を行いたい。	
			(外部評価) 安全を優先させなければならない場合には、利用者や家族と話し合い、同意を得ている。各階のドアにはチャイムを設置し、職員は利用者の様子を常に確認している。施錠は行っていない。	職員全員での研修会や勉強会を実施し、身体拘束の定義や弊害についての理解をさらに深め、実践に活かしていくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ○新人スタッフは理解が不十分だと思うので勉強会を行い、防止に努めたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ○一部の職員は研修に参加し学ぶ機会があったが、全員が理解するまでに至っていないので勉強会を行いたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ○不安や疑問点等十分に聞き、納得を得られるように個別の配慮を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ○運営推進会議に利用者と家族にも参加していただき、発信の場を設けている。 ○介護相談員が来所し、普段より意見が言いやすい雰囲気作りに努めている。 (外部評価) 家族会を開催して意見交換を行ったり、意見箱を設置しているが、運営に関する意見はあまり出されていないため、管理者及び職員は、家族の来訪時や電話で個別に意見や要望を聞き取るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ○ケアカンファレンスは各フロアで行っている。 ○業務カンファレンスは全体で行っている。 (外部評価) 月1回のユニット合同での業務カンファレンスと、ユニット毎のケアカンファレンスを開催しており、管理者は職員との意見交換を行ったり、職員からの提案を聞くよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ○有資手当をつけ、資格取得といった向上心を持つように取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ○研修に参加し、報告をしている。 ○ホーム内、会社での勉強会を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ○法人外グループホームとの交流を持ち、総合訪問を行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ○事前調査を行い、本人とも十分に話をし思いを理解して、また見学に来ていただき顔なじみになるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ○事前調査を行い、家族の思いを理解し気軽に話が出る関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ○その方にあった支援やサービスが受けられるような対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ○本人が出来ることは出来るような支援をし、スタッフから「ありがとう」が言えるような支援をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ○面会時には家族の思いを聴き取れるような会話に努め、電話や面会等、家族の支援もお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ○買い物や墓参り等、本人が大切にしてきた場所に行けるよう企画を立て、家族にもアプローチしている。 ○仲良しだった友人知人、御近所さんの面会もある。 (外部評価) 外出時には、利用者が以前住んでいた場所の近くまで足を伸ばしてみたり、馴染みの店へ立ち寄りしたりしている。法事への出席など大切な外出の支援にも努めている。時には家族の協力を得て外出することもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ○トラブルにならないような環境作りをし、レクリエーションや外出を通じて関係が良好であるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ○入院時の情報提供を行っている。 ○お見舞いに行くようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ○日々の会話や行動により、本人の思いを把握するよう努めている。	
			(外部評価) 本人や家族との日常の会話や、ちょっとした言動等から思いを汲み取るよう努めている。気付いたことや把握したこと等は利用者の担当職員がセンター方式の書類に記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ○事前調査や面会時に聞いている。 ○聞き難い事もあるが、少しずつアセスメントを行い把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ○全スタッフが把握できるよう申し送りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ○日々の会話や面会時の会話よりアセスメントを行っており、月1回のカンファレンスで話し合っている。	
			(外部評価) 家族の来訪時や電話等で意見や要望を聞き、毎月のケアカンファレンスで検討している。3か月に1回モニタリングを実施して介護計画を作成している。職員全員が共有し、評価につながるような日々の記録が大切なことを職員全員が理解しており、実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ○個別の申し送りを徹底し、情報が共有できるようにしている。 ○生活サイクルの記録となっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ○月2回の往診と体調に合わせた受診、家族への電話の取り次ぎ、買い物利用、墓参り仕事等にも必要に応じて対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ○2ヶ月に1回の介護相談員の来所 ○年2回の避難訓練 ○園児とのふれあい ○ボランティアの受け入れ	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>○かかりつけ医がおり、往診が可能である。</p> <p>(外部評価)</p> <p>かかりつけ医は利用者や家族の希望を基本としている が、法人代表が医師であり、その運営する医療機関か ら月2回の往診もあるなど連携が密に取れていること から、今までのかかりつけ医から移行する傾向にあ る。受診は家族対応もしくは職員の同行で、日頃の状 態を伝えることができるよう工夫している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>○相談できる体制になっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>○系列に診療所がある為、連携できている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>○看取りに関する指針があり、ターミナルを経験した スタッフもいる。 ○家族や医療関係者と連携し、共に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用開始時には看取りに関する指針に基づき説明をし ている。重度化した場合には、その都度必要に応じて 家族、医師、職員等で話し合いを重ね、支援方針や内 容を決めながら実践している。</p>	<p>職員が看取りに関して不安を持たずにケアに当たれる よう、ケースや時期に応じて職員全体で話し合いや研 修会を重ねて意識の共有化を図り、チームでの看取り に取り組むことを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ○年1回、救命講習を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ○年2回、防災訓練を行っている。 ○地域の方の連絡網を作成している。 (外部評価) 消防署や地域の消防団の参加や指導を受けながら、年2回避難訓練を行っている。各居室の表札は誘導の有無が確認できるよう工夫されており、また近隣住民にも協力を依頼している。	消防署などの専門家や行政からのアドバイスを受けながら、3階からでもスムーズで安全に避難できる具体的な方法を身につけられるよう訓練を重ね、非常災害時に備えることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ○個人情報の取り扱いには十分注意している。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりに優しく丁寧に対応し、プライバシーや尊厳を守るようトイレ誘導をさりげなく行うなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ○日々の会話や行動により、その人を把握しており、その人らしく自己決定できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ○その方の体調や性格など、その人に合ったケアに取り組んでいる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ○出張美容室を利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ○一部の利用者と準備や片付けを一緒に行っている。	
			(外部評価) 介助を必要とする利用者が増えたため、職員も一緒に食べることはできないが、食事風景は和やかで会話も弾んでおり、下膳や食器洗いなどの片付けも一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ○その人に合った支援を行っている。(食器、好み、おにぎり、お粥) ○食事量チェックを行っている。 ○必要な方のみ、水分チェックを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ○毎食後行っている。 ○必要な方のみ、うがい薬でのうがいで清潔保持を行っている。 ○強い拒否があり、全員ではないが週1回のポリデントを実地している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>○定期的な、トイレ誘導で失禁が軽減した。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介助の必要な方については排泄の記録を取ってパターンを把握し、適切な声かけや誘導を行っている。トイレが浴室につながっており、汚れた場合にも羞恥心や不安を感じることなくスムーズに支援できるよう工夫されている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>○飲食物を工夫している。 ○立位不可能な方が、全介助にてP-トイレを使用する事で、自然排便する事が出来た。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>○順番等、出来るだけ希望に添えるよう努めている。 ○入浴は出来るだけ、ゆっくり楽しめるようにしている。また、一緒に入浴する方法もあり個々に対応している。 ○使用後の浴室の換気にも気をつけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の好む時間帯や体調に合わせてタイミングよく入浴を行っており、夜間の対応をしているユニットもある。入浴拒否の方にも声かけなどに工夫しながら、気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>○昼寝がしたい方、早く寝たい方、テレビを見てから休みたい方、その方に合った支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ○すぐに確認出来る様、ファイルしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ○趣味や好きな事が出来る環境作りに努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ○散歩や買い物等の支援をしている。 ○家族と外出される方もいる。	
			(外部評価) 中庭での日光浴や建物周辺の散歩は自由にしている。かなり急な山道という立地条件もあり、個々の希望に合わせた外出に職員が常に同行することは難しい場合もあり、家族に協力をお願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ○希望される方には、家族の了承のもと所持されている。 ○買い物時は、自分で支払われている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ○年賀状やハガキが出せるよう支援している。 ○電話の取り次ぎ、プライバシーの保護に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ○壁面等季節感が持てるようにし、テーブルには季節の花を生けるようにしている。 ○車椅子利用者が増え、窮屈である。	
			(外部評価) 各フロアそれぞれが、壁紙や家具の配置等で個性のある雰囲気づくりに取り組んでいる。共用空間の畳スペースが広くテーブルの配置が難しいため、全員が同時に食卓を囲んで食事することは困難な状況にある。	車いす利用者は個別のテーブルを利用しているが、同じ食卓で皆一緒に楽しく食事できるように畳スペースの有効活用を検討する等、工夫に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ○居室以外で1人になれる場所はないが、思い思いに過ごせるよう支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ○簡易ベッドを用意し、家族の方が泊まれるようにしている。	
			(外部評価) 備え付けの家具類は落ち着いた木調で、写真や花などそれぞれ思い思いの小物を飾り、個性的な部屋となっている。室内は整理整頓され、利用者の状態に合わせてベットではなく布団を使用する等の工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ○居室には大きな字で名前を書き、分かりやすいよう異なった色の花をつけている。 ○椅子が高い為、踏み台を置いている方もいる。	